

2009年5月8日

「魂は春の風によって」

顧問 山田 泰子

桜咲く4月の始め、親族の急逝の知らせに、大変驚き、悲しみました。故人とは近々会う約束をしていただけに、何故、そんなに急いで逝ってしまったのか、日頃は元気そうにしていたのに…。全くの予想外に、人生のむなしさを感じました。しかし何時までも落ち込んでいられるわけにもいきません。故人の死を悼みながら残された者も、いずれ死を迎えるのは必定のこと、もう一度、ヨーガで学ぶ聖典『バガヴァッド・ギーター』をひもといってみました。

「人が古くなった衣服を脱ぎ捨て、新しい別の衣服に着替えるように、魂も、使い古した肉体を捨て去り、新しい肉体をまとうのだ」(『バガヴァッド・ギーター』2章 22節)。故人の魂は不生不滅であり、永遠の過去から永遠の未来にわたって存在する、と教えています。魂は輪廻する主体であるといいます。そして、27節には、「…生まれた者は必ず死に、死んだ者は必ず生まれるからだ。だから必然で避けられぬことを、君が嘆く必要などさらさらないとあります。

故人の冥福を心から祈りつつ、死ぬまでの間に、できるだけ自身を修正し、心に染みついた煩惱の汚点をぬぐい去ってから、自由自在の心境で旅立ちたいと切に思います。故人の生前の数々の厚情に改めて感謝し、筆を置きます。

## ✽ Information ✽

ヨーガクラス予定：5/9(担当：平野)、23(山田)、30(平野)

6/13(平野)、20(平野)、27(山田)、7/11(平野)、18(山田)、25(平野)

✽ 去る2月22日(日)、第2回教養講座が開催されました(テーマ：「ヒンドゥー教からみた仏教」、講師：及川弘美先生(ヒンドゥー教研究家))。先生は故中村元博士のもとでインド思想研究の研鑽を積まれていた当時のエピソードを交え、ヒンドゥー教と仏教の共通点や相違点等について、平易にお話し下さいました。

参加者からは「興味深い内容でした」「語句の説明が明快でした」「時として我田引水的に聖典を解釈しがちですが、純粋に学問的に解釈していただき、大変参考になりました」といった感想が寄せられました。先生並びにご参加頂きました皆様、大変有難うございました。

✽ 皆様、ゴールデンウィークをいかがお過ごしでしたでしょうか。私の方は秋の2つの学会でヴィヴェーカーナンダについて研究発表をする準備をしたり、ハイキングを楽しむ日々でした。産みの苦しみとリフレッシュ…色々でした。(平野久)

## コルカタの ヴィヴェーカーナンダ像

《インド・ベンガルの風景 #1》



ヴィヴェーカーナンダ(1863ー1902)は「ネオ・ヒンドゥー」と呼ばれる思想家の一人です。アメリカ・イギリスにてヴェーダーンタ思想を伝道したのみならず、インドではラマクリシュナ・ミッションを設立しました。ミッションの出家僧は宗教活動の他、教育・医療・福祉・救援活動等に従事しつつ、社会に様々な貢献しています。

このヴィヴェーカーナンダ像は、コルカタ北部のシムラー地区にあるヴィヴェーカーナンダの生家の脇にあります(写真は2008年10月撮影)。立派な生家は、のどかなカマルプクルにある師ラマクリシュナの生家とは対照的で、西洋論理学や哲学などを学び、英語も堪能で、歌や楽器の素養もあったヴィヴェーカーナンダの教養高い、近代的な生活を想像することができます。